

## 「枕する所なし」

助任司祭 林 正人

先月の5日、教区の司祭人事（第4次）が発表され、私は11月1日付けで大森教会に移ることになりました。

今年の春、異動の対象から外れ、「やれやれ、これでもう1年、高円寺にしていることができるぞ」と、内心ホッとしていたのですが、そんな気の緩みを神様は見逃さなかったようです。とは言え、普段は中々ない時期の異動であることも確かで、内示を受けた8月の終りは、正直何も手を付けられない状態でした。しかしいつまでもボーっとしているわけにもいきませんので、現在、少しずつ荷物の整理に取り掛かっています。勿論、今月一杯は高円寺教会の司祭ですから、その仕事を疎かにするつもりはありませんが、担当していた講座等、どうしても交代して戴かなくてはならないものもありました。皆様にはご迷惑をおかけしますが、どうかご勘弁下さい。

司祭という者は、基本的に“宿なし”です。小教区教会に赴任すれば、そこに司祭館があり、寝室もあるでしょうが、神様が告げる場所にいつでも行けるように、常に心の準備をしておくことが必要と思うのです。その意味では司祭に“安住の地”はないわけで、唯一あるとすれば、それは正しく“神の国”、そこに到達するまでは永遠の旅ガラスです。いや、イエス様は「鳥には巣があるが、人の子には枕する所もない」と言われていますから、ガラスにもなれないのでしょうか。“枕する所なし”、それが司祭なんだと、4度目の引っ越しを前に思う次第です。

しかし、これは司祭だけではなく、信徒の方々も同じではないでしょうか。信徒の方々には引っ越し等、特別な事情がない限り、通う教会が変わることはないでしょうが、それでも目指すものが“神の国”である限り、皆様もクリスチャンとしては“宿なし”であり、“枕する所のない”人々なのです。そのような生き方を私たちは選んでしまったのです。いや“誰かさん”に選ばされてしまったと言うべきでしょうか。

1年7ヶ月、短い期間ではありましたが、本当にお世話になりました。これからも同じ東京教区民として、クリスチャンとして、共に神の国へ向かって旅してまいりましょう。